

吉賀町食育推進計画後期

《達成度 ◎:達成 ○:改善 □:変化なし ▼:悪化》

実施内容・目標		策定時の値 (H22)	目標値	H27年	R3年	達成度	成果	課題
目標1 朝食をきちんととる								
朝食を食べる子どもの割合が増える	保育所	94.8%	100%	90.9%	89.4%	▼	○朝食の内容を見ると、タンパク質の摂取は中学生で改善されており、野菜の摂取については保育所、中学生で改善されている。 ○朝食を食べることから始まる、「早寝早起き朝ごはん」の活動が保育所、学校、地域で定着した。	○朝食の摂取については、計画策定当初より悪化している。 ○まだまだ朝食の摂取率や内容は改善の余地あり。生活リズムについても家庭とともに取り組んでいくことが必要
	小学校	93.1%	100%	97.2%	80.1%	▼		
	中学校	87.5%	100%	97.5%	95.3%	○		
毎日、朝食にたんぱく質を食べる子どもの割合が増える	保育所	60%(H24)	80%	35.6%	17.9%	▼		
	小学校	56.7%	80%	46.4%	55.6%	○		
	中学校	51.5%	80%	51.3%	62.5%	○		
毎日、朝食に野菜を食べる子どもの割合が増える	保育所	36.7%(H24)	60%	17.8%	48.7%	○		
	小学校	28.4%	60%	32.1%	26.3%	▼		
	中学校	23.9%	60%	30.8%	31.3%	○		
実施内容・目標		策定時の値 (H21)	目標値	H27年	R3年	達成度	成果	課題
目標2 楽しく食事をいただく								
食事が楽しい子どもの割合が増える	小学校	87.4%(H22)	100%	89.1%	76.3%	▼	○食事のマナーでは、箸を正しく持つことについてはあまり変化が見られないが、席を立たないや食事中的メディアについては改善されている。 ○調理場が学校にあるからこそ、調理員さんの顔が見え、調理の苦勞がわかったり、残さず食べようという意識づけになったりしている。生産者の苦勞も知ることができ、給食が生きた教材になっている	○食事が楽しい子どもの割合については悪化しているが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、生活様式が変化(黙食)したことによるものと思われる。 ○箸や食器の持ち方、食べるときの姿勢を改善していく必要がある。地域ぐるみで取り組んでいくことが今後の課題である。
	中学校	83.5%(H22)	100%	95.6%	65.6%	▼		
箸を正しく持つことができる	5歳児	65.7%	80%	50.0%	68.6%	○		
	小学5年	64.4%	80%	72.7%	64.3%	▼		
食事中は席を立たない	5歳児	40.0%	70%	54.5%	57.1%	○		
	小学5年	44.1%	100%	56.4%	67.9%	○		
食事中はメディアにふれない	5歳児	48.6%	80%	31.8%	42.9%	○		
	小学5年	27.1%	80%	32.7%	35.7%	○		
	中学生	26.9%(H24)	80%	68.7%	32.8%	▼		

吉賀町食育推進計画後期

《達成度 ◎:達成 ○:改善 □:変化なし ▼:悪化》

実施内容・目標		策定時の値 (H21)	目標値	H27年	R3年	達成度	成果	課題
目標3 食事作りに参加し、食べもの・いのちを大切にする								
保育所・小中学校・地域で農業体験をする		全箇所	充実継続	全箇所	全箇所	◎	○弁当の日など調理活動をとおして「弁当を作るのが楽しい」、「料理を作るのが楽しい」子どもが増えてきている。また子どもたちの自信につながった。食に関する知識が高まったり、自炊意欲が高揚したり、食を営む力が育まれている。	○食事作りを体験する項目はほとんど目標達成しているが、準備から後片付けまでの一連の流れは通してできていない。食事を作るという部分的な参加にとどまっている。 ○家での食事作りにつなげていく必要がある。体験したことはわかるがそれ以外は身につける力が弱い。
簡単な調理ができる	5歳児	82.9%	100%	90.9%	94.2%	○		
自分で調理ができる	小学5年	78.0%	90%	72.7%	71.4%	□		
食事の準備や後片付けの手伝いができる	5歳児	31.4%	60%	54.5%	20.0%	▼		
	小学5年	35.6%	80%	30.9%	32.1%	○		
野菜作りをしたことがある	5歳児	89.2%	70%	68.2%	87.2%	◎		
	小学5年	98.3%	90%	92.7%	96.5%	◎		
実施内容・目標								
		策定時の値 (H21)	目標値	H27年	R3年	達成度	成果	課題
目標4 食文化を伝承する								
学校や保育所で行事食や伝統食を取り入れる		全箇所	充実継続	全箇所	全箇所	◎	○地域に伝わる文化を残していこうとする機運が高まっている。 ○田舎のおうちごはん2の発行ができた。	○学校や保育所では地域の食文化を学んだり、経験することができているが、家庭ではその機会が少なくなっている。 ○若い世代は何が伝承料理なのかを知らない人がおり、作ることができる人も少なくなっている。
家庭で地域の伝統食や行事食を食べたことがある	5歳児	80%	70%	68.2%	68.5%	□		
	小学5年	78%	70%	61.8%	64.2%	○		
地域の特産物について勉強している	小学5年	78%	90%	61.8%	89.3%	○		
実施内容・目標								
		策定時の値 (H21)	目標値	H26年	R2年	達成度	成果	課題
目標5 自分の体に興味を持つ								
特定健診の受診率が向上する		40.0%	65.0%	47.2%	54.0%	○	○特定健診の受診率は受診率向上の取り組みにより向上している。	○有病率はどの疾患も上がっている。 ○特定保健指導の対象者が毎年ほぼ同じであり、改善があまりみられない。 ○健康教室等の参加者が少ない。 ○企業側からも取り組み(健康戦略)ができるようになる仕組みづくりが必要。
有病率(高血圧)が改善する	男	30.8	改善	42.6	39.3	▼		
	女	18.3		20.4	26.8	▼		
有病率(糖尿病)が改善する	男	4.9	改善	8.7	11.1	▼		
	女	2.6		4.3	6.4	▼		
有病率(脂質異常)が改善する	男	32.1	改善	34.4	39.1	▼		
	女	38.9		39	40.1	▼		

吉賀町食育推進計画後期

《達成度 ◎:達成 ○:改善 □:変化なし ▼:悪化》

実施内容・目標		策定時の値 (H19)	目標値	H24年	R4年	達成度	成果	課題
目標6 自分の食生活に自信を持つ								
食生活をよいと思う割合が増える	男	39.5%	70%	46.1%	44.9%	▼	◎高齢者や若い方からも味噌汁は減塩にしているという声を聞くようになった ◎働き世代への取り組みが課題。 ◎子どもの食事について、学校給食では食べるが、家庭でも同様とは言えない状況。 ◎家庭での食事における栄養バランスの乱れが気にかかる。 ◎大人も子どもも自分に必要な食事量(適正量)を理解すること。 ◎食生活に関するすべての項目全体について、前回調査より結果が悪くなっている。	
	女	43.1%		44.1%	43.9%	▼		
バランスガイドを知っている割合が増える	男	34.7%	60%	30.4%	23.3%	▼		
	女	47.7%		58.7%	56.1%	▼		
バランスガイドを利用している割合が増える			40%		9.8%	▼		
朝食を摂取している割合が増える	男	78.4%	90%	89.2%	85.2%	▼		
	女	89.2%		95.1%	88.7%	▼		
カルシウム摂取を意識している割合が増える	男	74.4%	90%	68.6%	59.7%	▼		
	女	76.7%		84.8%	78.8%	▼		
野菜摂取を意識している割合が増える	男	71.8%	90%	75.2%	71.6%	▼		
	女	84.6%		93.9%	86.8%	▼		
減塩を意識している割合が増える	男	43.7%	80%	44.6%	40.3%	▼		
	女	66.5%		71.5%	56.6%	▼		
実施内容・目標		策定時の値 (H22)	目標値	H27年	R3年	達成度	成果	課題
目標7 高齢者のよい食生活を実践する								
塩辛いものを食べる割合が減る		23.0%	10%	20.1%	20.7%	○	◎目標には達していないものの、多くの項目で計画策定当初より改善がみられる。 ◎目標が改善した背景にはふれあいサロンなどでの健康教育が影響しているのではないかとと思われる。 ◎食べるのが楽しくないと感じている割合が増えているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、会食の機会が減っているのも原因ではないかと思われる。 ◎フレイルについて、自分で調理を続けることができるからだづくりや、お口の健康づくりなどについても一緒に啓発していくことが必要。	
牛乳乳製品をほとんど取らない割合が減る		21.8%	10%	14.9%	14.9%	○		
油気のあるものをあまり食べない割合が減る		18.4%	10%	13.7%	11.1%	○		
肉や魚をあまり食べない割合が減る		14.9%	5%	9.2%	9.1%	○		
果物をほとんど取らない割合が減る		11.9%	5%	10.4%	11.3%	▼		
食べるのが楽しくないと感じている割合が減る		10.3%	5%	6.4%	12.7%	▼		
野菜やイモ類、海藻類をあまり食べない割合が減る		8.0%	5%	7.2%	9.1%	▼		

吉賀町食育推進計画後期

《達成度 ◎:達成 ○:改善 □:変化なし ▼:悪化》

実施内容・目標	策定時の値 (H22)	目標値	H27年	R3年	達成度	成果	課題
目標8 地域での食に関する活動を進める							
食生活改善推進協議会の会員が増える	48人	80人	60人	58人	○	○食生活改善推進員数は目標に達しないが当初よりは会員が増えている。 ○食事の支度を男女で分担している割合は増加した。 ○食育フェアは新型コロナウイルス感染症の流行により左右された。広報の食育コーナーは定着している。 ○保育所や学校と地域の活動が連携できた。体験をとおして、地域の人とのつながりも生まれ、子どもたちの社会性も育っている。 ○食育フェアが定着し、食について関心を深めることができた。 ○離乳食や子どものおやつについて、保育所と行政で意思統一できた。 ○この地域の自然を生かした幼児期からの食育、季節を感じる食育活動を通じて、子どもたちが積極的に、食を大切にする気持ちや食への興味、生産に携わる人への感謝の気持ちや地域への愛着の気持ちを育むことができた。そこから子どもたちの地域への貢献に発展した。 ○「食育」という言葉や活動が定着し、保育の中に食育活動を自然に取り入れることが出来ている。 ○食生活改善推進協議会の活動が活発になった。その活動が認められて厚生労働大臣表彰や食育活動表彰を受賞した。 ○食、歯についての標語を募集し、優秀作品を上り旗にした。	○食に関する活動を継続させること。 ○地域の方の支援が継続できる体制づくり。 ○子どもの食事について悩んでいる家庭は多く、家庭とともに取り組んでいくことが課題。 ○吉賀町の魅力である食を活用して地域おこしができるといい。 ○新たな食生活改善推進員の育成が課題。 ○上り旗の活用。 ○全世代を通じてしっかり噛むことがこれからの課題。 ○食に関する地域活動で男性の参加が少ない。
食事の支度を男女で同じ程度する割合が増える	5.1%(H21)	30%	5.60%	11.70%	○		
健康づくり応援店の数が増える	29店舗	増加	16店舗	17店舗	▼		
食育フェア・食育講演会の開催	なし	充実継続	年2回	新型コロナウイルス感染症により中止	▼		
広報で食に関する普及啓発を図る	なし	充実継続	毎月	毎月	◎		
実施内容・目標	策定時の値 (H22)	目標値	H27年	R4年	達成度	成果	課題
目標9 地産地消を進める							
地産地消を大いに意識している割合が増える	29.3%	60%	35.8%	50.9%	○	○学校給食をはじめ、保育所や病院、福祉施設、高校の寮や町内の飲食店、地元スーパー等へ地元食材が供給されるようになってきた。取扱い量も増えた。 ○高齢者が野菜を作り販売することが生きがいにつながっている。	○生産者の高齢化、スタッフの不足が課題。需要と供給のバランスが取れない。 ○高齢者が作った野菜を運搬することが課題。 ○野菜や農産品加工など生産者の高齢化と後継者問題。 ○Iターンの所得対策。 ○耕作放棄地。
地元の野菜をできるだけ入手している人の割合が増える	(-)	60%	58.8%	63.9%	◎		
野菜作りをする人の割合が増える	(-)	増える	50%	61.2%	◎		
しまね故郷料理店の数が増える	(-)	増える	2店舗	1店舗	▼		
学校給食で地場野菜の活用割合が増える	68%(H21)	80%	63%	48.9(R3)	▼		